

当院における乾燥ろ紙血を用いたファブリー病スクリーニング検査実施の取組み

◎西耒路 朋美¹⁾、増山 雄太¹⁾、篠田 迪布子¹⁾、植木 真未¹⁾、浦田 真由美¹⁾、井出 義子¹⁾
社会福祉法人恩賜財団済生会 龍ヶ崎済生会病院¹⁾

【はじめに】

ファブリー病はライソゾーム酵素中の α ガラクトシダーゼ(α GalA)の活性低下あるいは欠損により起こる疾患である。本来 α GalAにより分解されるグロボトリアオシルセラミド(GL3)が分解されにくくなり、全身の細胞や組織にGL3が蓄積した結果様々な症状をきたす。有効な治療を開始するためには早期診断が重要であり、乾燥ろ紙血を用いた酵素活性測定を行うことで、簡便にスクリーニングを行うことができる。

当院では、循環器内科医師からの要望により、郵送による乾燥ろ紙血を用いた酵素活性測定検査(以下、郵送ろ紙血検査)の提出体制を検討した。今回、当院において臨床医及び関連部署との連携により郵送ろ紙血検査の実施体制を構築したので報告する。

【取組み】

①運用方法の検討：検査依頼から結果報告までの一連の流れについて検討した。②関連部署との調整・手順の決定：実際に運用するため、臨床医および事務部との調整を

行った。③提出用セットの作成：必要事項を入力した専用依頼書を作成し、ろ紙や郵送用封筒などとセット化した。

④採血：ろ紙血作成用の血液を採取した。⑤ろ紙の作成：ろ紙への血液の塗布を行った。⑥郵送：必要書類とろ紙を指定医療機関へ郵送した。

【結果】

臨床検査科が主体となり郵送ろ紙血検査の提出体制を確立した。2021年11月より現在までに9例の郵送ろ紙血検査を実施し、内1例はファブリー病の診断が確定した。

【考察】

郵送ろ紙血検査が実施可能となったことで、1例のファブリー病を拾い上げることができた。

臨床検査科でろ紙血作成を行う運用としたことで、スタッフへのファブリー病への関心を高めることができた。また、ファブリー病疑い患者を把握し情報を共有することで尿沈渣検査時に注意を促すことが可能となった。

連絡先 0297-63-0020